

## 2022年度 事故・ヒヤリハット等 報告

2022（令和4）年4月～2023（令和5年）年3月までの事故・ヒヤリハット等の内容及び対応結果は以下の通りです。

日時	区分	内容	対応結果
4/6	事故	男児（3歳）、給食の為に部屋に戻ってきたときに、窓の段差につまずき、転倒し準備で並べてあったテーブルで唇をきる。唇から出血する。	すぐに水で流し傷を確認し、保冷剤で冷やす。
5/12	事故	男児（2歳）、登園後肘の痛さを訴えた。原因不明であるが、受診した結果肘を骨折している可能性とのこと。	登園時の状況の把握不足でもあるが、子どもの表情も見ずに体遊びをしてしまったことが原因か。
5/13	事故	男児（5歳）デッキで遊んでいる本児に給食への誘い掛けの言葉で保育室へ走っていく。保育室入り口水道の周りが濡れていたためそこで滑り、前のめりで転倒し、保育室入り口のサッシの枠でおでこをぶつけて3センチほど切る。	看護師がタオル、冷却剤を使い止血、冷やす。
5/16	事故	男児（3歳）、カエルの図鑑を取りに階段の踊り場に上がろうとし、蛙飛びの様に階段を飛び上がり、バランスを崩し左頬を強打する。傷と青あざが見られた。	看護師に診てもらい、傷の消毒と保冷剤で10分程冷やす。目の近くだった為、絆創膏などの保護はしなかった。
6/7	事故	男児（3歳）、昼食時泣いていたので、事情を聞くと、左手小指に椅子が落ちてきて痛いとのこと。少し腫れているようにも見えたため、主任に報告する。	流水で5分ほど冷やし、看護師に見てもらう。触診、動きの確認をした。午睡時に保冷剤で冷やす。
6/10	事故	A児（5歳）、給食前、園庭で桜の木の周辺でB児（5歳）と遊んでおり、保育者は時々様子を確認しながら給食の準備をしていた。B児が、A児が木から落ちたと報	傷口を洗いしばらく冷やす、頭を打っていないかの確認を手と目で確認して本児にも確認していく。頭部は打っていないようだったがしばらく、

		告に来る。すぐに行くと、A 児が顔を押しさえて泣いている。左ほほと左腕の内側をこすっている状態すぐに冷やして対応する。状況を二人から聞くと本児が木から滑り降りようとして手が滑って落ちたとのことであった。	視線、顔色を確認していくようにした。
8/8	ヒヤリハット	午睡前の時間、サークル内で A 児 (0 歳) と B 児 (0 歳) が布団の上でゴロゴロしながらじゃれあっていたが、押したり押されたりしている際に A が B の右手の甲を噛んでしまう。	かみ傷を流水で冷やす。
9/6	ヒヤリハット	A 児 (3 歳) と B 児 (3 歳) が、にじのお部屋の空気清浄機の空気口に風船をのせてとばして遊んでいた。ボタンを何度も押していたため、保育士が「何度もボタンを押すならここで遊ぶのはおしまいね。」と話すと、A 児は分かり、何度もボタンを押す B 児に「もう、おさないで」という。それでもボタンを押す B 児に怒り、取っ組み合いになり、右手首に噛み付いた。	流水で 10 分ほど冷やす。
10/5	ヒヤリハット	おやつ時間に、男児 (2 歳) が牛乳を欲しがり提供する。保護者にアレルギーの有無、提供の可、不可を確認していなかったため、迎えに来た母親に経緯を説明。謝罪する。	飲食を確認後すぐ口をゆすぎ体調の変化を見る。 変化はなく、通常通り過ごしている。
10/17	事故	給食の配膳時に配膳台の近くでご飯を注いでいた保育者の周りに数名の子どもがいた。女児 (4 歳) がお皿を落としてしまい、割れた皿が粉々に飛び散ってしまう。通らないでと声を掛けるがその近く	足の裏を付けないように抱きかかえ、看護師に診てもらう。ティッシュで抑え止血し 5 ミリ程度の傷口を見つける。そのまま交代しガーゼで止血。傷口はあまり深くない

		を通り裸足で移動し、近くの保育者に「いたい。なにかささった。」と訴え、右足の裏真ん中あたりを見せると血が出ていた。	く、陶器の破片も無いように思うとの事。ガーゼを貼って部屋に戻る。
10/20	ヒヤリハット	園児のオムツを交換していたときに、男児（1歳）が畑側の窓を閉めていた。オムツを換えていたため動けず、「閉めなくていいよ」「開けててね」と伝えたが、そのまま閉めてしまう。女児（4歳）が窓のところに来て、閉めた窓で右手の親指の付け根を挟んでしまった。	すぐに挟んだ部位を流水で冷やした。少し赤みがあったが、時間が経つと消失していた。
10/20	事故	女児（2歳）、散歩で立ち寄った公園で滑り台やブランコで遊んでいた。気づくと裸足になり砂場の砂の感触を楽しむようにあそんでいた。その時に「あしがいたい」と保育者に訴えてきた。すぐに痛がっている箇所を確認するが外傷や変わっているところはなかった。帰園することになり、靴を履き歩き始めると「あしがいたい」と泣き始める。保育者に背負ってもらい帰ってくる。	帰園後、看護師と一緒に確認すると赤く腫れていた。打撲や骨折の可能性があると判断し保冷剤で冷やし、保護者へ連絡する。 当日病院受診しレントゲンの結果ひびが入っていた。 1週間後に病院に行くも、痛がらなかったため、「大丈夫だろう」ということで、通院終了となる。 想定される完治日：10月27日
10/25	ヒヤリハット	A児（1歳）が保育室で遊んでいる際、B児（1歳）とおもちゃの取り合いになり、左腕をかまれる。	流水で5分以上冷やし、その後保冷剤でも冷やす。
11/22	ヒヤリハット	女児（0歳）、保育室からデッキへ出ようと、出入口から降りようととしたが、ふらついて窓のサッシの部分で顔をぶつけた。左のまぶたの部分が少し赤くなった。	保冷剤で5分程冷やす。その後様子を観察した。
11/30	ヒヤリハット	給食後のかたづけ、午睡準備中にA児（3歳）、B児（3歳）、C児	布団の上に芯が残っていないか丁寧にみて布団もはたいて

		(4歳)が布団を敷いている布団の上でホッチキスの箱から芯が出た状態で発見。すぐに回収して子どもの手の届かないところに片付ける。	く。
12/1	事故	A児(3歳児)がデッキをB児(3歳児)と走っていて、デッキから落ちて顔から転ぶ。りんくの職員が見ている、デッキから落ちたことと唇から出血していることを教えてくれた。 口から出血していることでびっくりした様子で泣いていた。	傷口を確認し、ティッシュで傷口を抑え流水で流しうがいさせる。出血がとまり傷口の確認をする。唇が腫れると思い保冷剤で冷やす。歯が大丈夫だったか?心配だったので前歯の上下を押して様子を見るがグラグラするなどの変化はなさそうだった。食事をする様子も観察するが変化なくよく噛んで傷口が染みるなどの訴えもなかった。
12/2	ヒヤリハット	お散歩から帰ってきて散歩車を降りる際、座っていた状態から右側に落ち、おでこの右側を打つ。 すぐにおでこを確認し、同じお部屋の保育者に報告。 処置をお願いする。	保冷剤で冷やしている間に泣き止む。 5分~10分冷やし、そのまま様子をみる。 吐いたりなどはなし。
12/5	ヒヤリハット	朝、にじの保育室でA児(2歳)が同じお部屋のB児(3歳)に髪の毛をハサミで切られる。 8時15分頃の時点では、2人でクレヨンを使ってお絵描きをしていたのでデッキに出て朝の受け入れや子どもの対応をしていたところ、「髪の毛切ってる。」と子どもが教えてくれたので見に行くと、机の周りや洋服に髪の毛がたくさん落ちていた。 2人に話を聞いたところ、お互いが切り合ったという感じだった。 ハサミはどこにあったのか聞くと	以前、園児が自分の髪をハサミで切る事例があったため、これ以後、園児のハサミは保育士が管理していたが、道具箱に置き忘れていたために起きたことであった。

		お道具箱を指さす。	
12/7	事故	<p>女兒（0 歳）、散歩中、マンションの駐輪場と壁の間を歩いていて転んでしまいあごを怪我する。</p> <p>壁の方はフェンスとブロックがあり、転んだ際にブロック塀であごを擦ってしまう。</p>	<p>水道等はなかったのでウェットティッシュで受傷部位を拭いた。ガーゼで処置。</p> <p>公園に着き、ティッシュを水で濡らし受傷部位の血を拭き取る。</p> <p>園到着後、水道水で洗う。この時にはほとんど血は止まっていた。</p>
12/9	ヒヤリハット	<p>園での行事餅つきがあり、3～5 歳児は給食にご飯の代わりに餅を食べる。</p> <p>1, 2 歳児は、おにぎりであったが、餅が配膳車の上に自由に取れる状態で置いてあった。</p> <p>男児（1 歳児）がおかわりを取りに行った際に餅を持ってきて食べようとしていた。本児が餅を食べる前に保育士が気づき誤食を未然に防いだ。</p>	
12/9	ヒヤリハット	<p>園庭ブランコの板が壊れたあとの、ループを結びロープでブランコにして遊んでいた。危ないことや落ちたら怪我をするなど話していた。その日は、保育者が近くで見守り怪我もなくひもももどし終わったが、翌日（9 日）も同じ遊びをしていた。男児（5 歳）が保育者が見ていないところで転落し怪我をするが、前日、保育者に言われたことがあり怒られると感じ話せずに降園する。</p> <p>降園後、父親が下着に出血した跡があり背中に怪我をしていたことがわかる。本人は怒られると思って話せなかったとのこと。</p>	

12/16	ヒヤリハット	<p>女兒（1歳）、散歩で行った公園の滑り台に階段で登り、登り終わる直前に後ろを振り向いて足を滑らせ階段を滑り落ちる</p>	<p>けがや打ち身がないか直ぐに視診したが、痛がる様子もなく異常もなかったのでしたばらく様子を見るようにした。</p>
1/16	ヒヤリハット	<p>男児（3歳）、畑でジョウロで水を掛けたり、野菜の様子を見ていたりしていた。畑の境に張っているネットが垂れ下がっていて畑から外にジャンプをしたので「足がひっ掛かってけがするよ」と声を掛け、1度は止めるが、再度繰り返し、バランスを崩しマンホールのに倒れ込み右側眉下と頬を擦りけがをする。</p>	<p>砂などの汚れは見当たらず、打ち身も見られたので、氷のバックをタオルで包み冷やす。</p>
1/16	事故	<p>A 児（4歳）がほしの部屋のデッキで話をして歩いていて、不意に向きを変え反対方向に走ろうとしたとき、にじの部屋からとびで出てきた C 児（3歳）、D 児（3歳）とぶつかり、バランスを崩し水道のところで右上腕をぶつける。腕が痛いと訴える。</p>	<p>痛いという個所に氷バックを当て冷やす。看護師に様子を目視で確認してもらう。指も折り曲げ、閉じたり開いたりでき、腕を伸ばし上や横に曲げたりと動かせることを確認。赤くなった箇所は見当たらないが念のため再度、数分冷やしておく。</p>
1/17	ヒヤリハット （行方不明）	<p>ほし、にじ合同で園児27名、保育者7名でいきいき公園へ散歩に出かける。</p> <p>A 児（2歳）は、多動傾向があるため、保育者が1人ついて一緒に歩いていく。後ろの方を歩いており、園より400m位たったところで、保育士が A 児と保育者がいない事に気づき村木に報告してくる（10:30頃）。副主任木が歩いてきたコースを園まで戻り探す。園にも帰っておらず、園に連絡してから別コース（きんかんコース、無線下公園コース）を</p>	<p>A 児についていた保育者が当日の散歩コースを把握しておらず、別なコースで先に目的地についていた。携帯電話も持っていなかったため、連絡も取れなかった。</p>

		探しに行く。無線下公園を過ぎたところに別に探していた園長から、保育者と A 児は目的地に到着していたとの連絡があった。(先に行っていた園児 26 名はまだ到着していない状態)	
2/15	ヒアリ ハット	おひさまの部屋から畑側デッキに後ろ向きになりサッシのへりをつかみながら降りたがバランスを崩しサッシの角におでこをぶつけた。	すぐに 10 分ほど冷やして様子を見た。
2/24	ヒアリ ハット	女兒 (0 歳)、午前のオムツ交換時、自分でトイレに行き、便座が空いていなかったのものでトイレと部屋を行ったり来たりしている時、扉の端に手を掛けたまま扉を押してしまい指を挟んでしまう。	すぐに扉を開き隙間から指を取り出し、10 分ほど冷水で冷やす。
2/28	ヒアリ ハット	女兒 (4 歳)、給食準備中、テーブルを運びテーブルを支えていた A 児の手があることに気づかずに足を広げた拍子に指を挟む。	指の皮膚の裂症と陥没があり、保冷剤で 5 分ほど冷やし、流水で流し絆創膏をはりその上から冷えピタで冷やす。 (1 時間以上) 午睡明け、傷口と陥没箇所の確認と手指が使えるかの確認をする。 長い時間冷やしたことで、陥没を皮膚が持ち上がり傷口はほとんどなかったが絆創膏をはる。腫れが残る。
3/22	ヒアリ ハット	A 児 (1 歳) が使っていたおもちゃを B 児 (1 歳) が気付かずにとってしまい、取り返そうとしたつむぎに右頬をひっかかれる。	赤くなっていたので保冷剤で 10 分ほど冷やした。
3/23	ヒアリ ハット	外は小雨が降り、走り回る子やなわとびをする子、お部屋でごっこ遊びをする子と、それぞれが遊びざわざわしていた。走り抜ける子	保育士が気付き後頭部にたんこぶが見られたので、報告。 髪の間だったため氷パックで直接 15 分程保冷する。し

		<p>も多かった為、石鹼山をデッキに設置し、その上で寝転がったり体を弾ませたり遊んでいた。</p> <p>女兒（2歳）が上に立つ姿を見かけていたので、転がるからあぶないと声を掛けると、座る様に伝えると寝転がったり、別のところに行っては戻ってきたりと遊んでいた。身体のバランスを崩し、石鹼山から転がり落ち窓のサッシで後頭部を打ち泣く。</p>	<p>しばらく経つと泣き止み、嘔吐や言語など異常は見られなかった。本人が「もうちいさくなった」と言い、遊びはじめた為冷やすのを止め様子を見守る。</p>
3/23	ヒアリハット	<p>A 児（1歳）が積み木を重ねて高く積んで遊んでいたところへ B 児（1歳）が来て、積み木を手で押して倒してしまった。A 児は怒って B 児の右頬をひっかいてしまった。</p>	<p>赤くなっていたので保冷剤で5分程冷やした。</p>
3/24	事故	<p>3月生まれの誕生会にて、保育者4名含む子どもたち16名でケーキのスポンジ作りを行う。</p> <p>生卵、バター、牛乳、ホットケーキミックスの材料を給食室から準備してもらい、材料を入れたり自分たちで混ぜていった。バターを釜に塗る際や生地がこぼれた際になめたり、つまみ食いをする姿は以前から見ていたが、止めたりはしていなかった。炊飯器に入れ、でき上げるのに時間が掛かるため、誕生会をしようとしていた時、男児（5歳）が、目を赤くし痒そうにしていた為、アレルギーを疑い「もしかしてなめた？」と聞くと頷いた。</p> <p>本児は、牛乳アレルギーは解除され、保育園での給食、おやつは普通食だった。</p>	<p>アレルギーは解除されていたが、注意すべきだった。</p>



